

## 光晴中学校の名前の由来は 曾我簡堂にあり!

曾我簡堂は、1830(天保元)年に浦木(山飯野新田)の農家に生まれた儒学者です。通称は静次、名は敬長、字(別名)は希淵、号(雅号)を簡堂といます。



少年時代から学問好きで、父の勧めもあり、上大月の坂井経堂に学びました(79ページ)。江戸へ出て、1847(弘化4)年3月から約7年間は大橋訥庵に学び、更に1年間、佐藤一斎に学んで、朱子学と陽明学を修めました。

1855(安政2)年に帰郷すると、光霽楼という塾を開き、地域の中高等教育にあたりました。簡堂の評判は次第に高まり、新発田藩主に招かれて、儒学の講義をしたこともありました。のちに藩は、簡堂を社講に任命して子弟の教育にあたらせるとともに、村役人の監督役に登用して、その力を発揮させました。

また、戊辰戦争の際には、藩に尊王、王政復古の大義を説き、自らも岡方組正気隊の一員として活躍しました(60ページ参照)。

1870(明治3)年12月、藩の学政改革によって設立された庶民の教育機関、

郷学校の教師になり、士族の身分を与えられました。その後、長年の人材育成が認められ文部省の表彰も受け、1884(明治17)年に55歳で亡くなりました。

1993(平成5)年に開校した光晴中学校は、光霽楼にちなんで名付けられました。「光霽」は「光風霽月」の略で、さわやかな風と雨上がりのよく晴れた日のことです。心が清らかでわだかまりのない人や、よく治まった世の中にたとえられることばです。



簡堂曾我君之碑銘(浦木)

1887(明治20)年4月に門人たちによって建てられました。

### MEMO

大橋訥庵(1816~1862)

幕末の尊攘派志士、儒学者。朱子学を信奉。過激な攘夷論を主張し、ペリー来航時には幕府に追い払うことを迫りました。

朱子学

儒学の一派。南宋の朱熹によって大成。

『北区お宝ものがたり』は、博物館などで1冊800円で頒布しています。